



宮城県栗原市耕英地区の被害状況

第1
特集

岩手・宮城内陸地震災害 に関する対応

マグニチュード7.2を観測し、被害も広範にわたった「平成20年岩手・宮城内陸地震」。
林野庁では、二次災害防止のための緊急対策として河道閉塞箇所等、
下流への影響が懸念される箇所に土石流センサーや警報装置等を設置したほか、
大規模な崩壊地等を復旧するための対策を行っています。



地震が発生してからの 取り組みと復旧対策

平成二〇年六月一四日八時四三分頃、岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード七・二の地震が発生。同県奥州市と宮城県栗原市で最大震度六強を観測し、両県を中心に甚大な被害が発生しました。

今回の地震の特徴は、建物の倒壊や破損よりも山地災害が多く報告されていることです。被災したのは岩手、宮城、秋田、山形の四県で、岩手県一関市、奥州市、宮城県栗原市を中心として大規模な山腹崩壊や地すべり、土石流が発生し、各地で道路が寸断。林野関係の総被害箇所は一四二三箇所、総被害額は一〇一九億円にのぼっています（七月三〇日現在）。

地震発生日の翌一五日には森林管理局がチャーターしたヘリコプター

- 上 / ドソウ沢上流域（駒の湯温泉上流）における土石流被害の調査状況
- 下右 / 上空から現地を調査する今村農林水産副大臣
- 下左 / 復旧対策等について打ち合わせる井出林野庁長官（中央）